

平成28年度全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

(様式1)

和歌山市立湊小学校

【調査の概要】 実施日；平成28年4月19日（火）第6学年22名が対象

【内 容】 文部科学省が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上のため、児童・生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育施策の成果と課題を検証し改善を図ることを目的として毎年4月に実施しているもの。

調査教科の国語・算数は、A「知識」とB「活用」に関する問題で、Aでは、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい内容で、Bでは、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力などについて出題された。

A、B共に国語は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の4領域に、算数は、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域に分かれている。

さらに、上記の国語、算数の学力調査の他、質問紙調査があり、児童の学校や家庭における学習状況や生活状況が問われている。

【調査結果について】

《国語科の傾向と今後の取組》

○知識Aにおいて良かったところ

日常的に使う「快晴」「相談」等の漢字の読み書きは、全国レベルである。また、「話し合いの内容を読み取る問題」では、全国よりも7ポイント上回っている。

○活用Bにおいて良かったところ

① 「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む「パン職人」の間では、内容が身近だったこともあり、正答率が高く、全国に比べても約9ポイント上回っている。また、無解答率が低い。

② 挿絵等の視覚的に訴えられる問題環境づくりを整えることにより、意欲的に取り組み、正答率が高くなることも考慮しながら問題に取り組ませることも考えていきたい。

★課題と今後の取組

【A】

① これまでの湊っこタイムでの取組や毎週の月・木曜日のフォローアップの成果もあり、漢字の読み書きはまずまずできているが、使い慣れていない「省く」の読みは全国と10ポイント以上の差があった。

② 全国と比較すると、「ローマ字を読むこと」が約10ポイント差、「ローマ字を書くこと」で約20ポイント以上の差があり、読み書きに慣れていないことが解る。ローマ字については、3年生での学習後、国語の授業だけでなく外国語活動や総合的な学習の時間を利用したパソコンやローマ字に触れる機会、利用する機会を多くすることも必要と考えられる。

③ 今後の取組として、日常の漢字学習の反復、辞書引き等で語彙を増やし慣れさせることが重要である。

【B】

① 「インタビューのメモを基にし、話の展開に沿った質問を書く」問で、無解答率が約3分の1となっている。話し、聞いたことをまとめて書くという記述式の問題が苦手である。

② 「早寝早起き」の活動の課題を表したグラフや表をもとに自分の考えを書く問で、全国とは大きな開きがある。周囲の発言をメモったり、また表やグラフから読み取れる内容を自分のことばでまとめ、ノートに記録、書く練習を取り入れていきたい。

《算数科の傾向と今後の取組》

○知識Aにおいて良かったところ

Aの問全体では、全国の正答率より約4ポイント下回っていたが、「小数の除数」「三角形の底辺と高さの意味」「百分率の意味」などでは、全国の正答率よりも5～10ポイント上回っている。カッコ内への穴埋めの問などであり、良く解けている傾向がある。

○活用Bにおいて良かったところ

Bでは、全国の正答率とほぼ同様な正答率となっている。特に、「大きな紙上に1辺9cmの正方形がいくつとれるか」という問や「図書委員が表したグラフを読み取って、正しくない理由を書く」問では、全国よりも約10ポイント正答率が高く、全体でも5つの問において全国の正答率を上回っている。

★課題と今後の取組

【A】

- ① 「 $18 \div 0.9$ 」の除法などに見られるように、除法の意味と小数の計算の反復練習が必要である。数の概念と小数の位の概念が理解できていないため、数字だけを見ても大小が比較できなかったり、計算するときの小数点の位置を変更する意味などに曖昧さが残っている。再度、小数の概念をしっかりと理解させることや日常生活の身近な出来事として捉え、実用的に活用する練習を繰り返していく。
- ② 割る数と割られる数というように、「基になる数、基本となる量が何か」等も曖昧なため、除法の時の「割る数」「割られる数」が逆になったりしている様子があるので、元の意味をしっかりと押さえ、理解させていきたい。
- ③ 図形では、立体的に物事を見ることが難しく、そのため立体を構成する面と面、辺と辺の位置関係などが整理できないと考えられる。図形の辺の位置関係の確認と立体模型、展開図を用いての辺や面の位置関係の学習とを平行して確認させていく。

【B】

- ① 「正方形の面積が変化することの確認」を式では計算できるが、説明するために記述する段になると正答率が低い。式が表す意味、式を言葉へ変換すること等を平素の授業の中でも練習していく。
- ② 「正方形や円の性質」に関する知識やある事柄を計算する時の参考にするグラフや資料を読み取る力を付けていく。
- ③ 全体を通して、今後、様々な式や図形が出題される毎に、式が表す意味や理由の確認、図形の性質を反復して覚え、書けるようにする。さらに活用できるようにする。

《質問紙調査の結果と今後の課題》

【家庭での生活面】

- 「普段(月～金曜)、何時ごろ寝ますか」で、10時より前に寝ている子の割合は、全国と比較すると約13ポイント低い。また、「友達と話し合う時、友達の話しや意見を最後まで聞くことができますか」では、「当てはまる」という子の割合は、県や全国よりも約30ポイント低い。
- 「普段(月～金曜)、1日当たりどれくらいテレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか」では、3時間以上している割合は、県や全国よりも約30ポイント高い。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」では、どちらかといえばしているを含めて、全国より約21ポイント低い。

★課題

- ① 普段の生活習慣で大切にしたいことは、規則正しい生活をする。つまり、決まった時間に寝起きしたり、テレビやDVDの時間を決めるなどの約束、習慣付けが大切である。時間を計画的に有効に使うことで、家庭学習の時間を家庭生活の中に確保し、規則的な生活習慣を作り上げていくことができる。
- ② 友達や周りの人との話し合いには、相手の気持ちを十分考え、自分の思いもしっかり、わかりやすく伝えるということも大切である。
- ③ 一方で、「学校に行くのは楽しいと思いますか」は、そう思う子は全国よりも17ポイント高く、どちらかと言えばそう思うを含めると、95%の割合を占めていることは喜ばしいことである。

【学校での学習面】

- 「国語の勉強は好きですか」は、「どちらかといえば当てはまる」も含めると約32%で、全国より約27ポイント低い。また「国語で、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」という問では、全国や県と比較すると、どちらかといえば当てはまるも含めても約25ポイント低い。
- 「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」という問で、「そう思う」児童の割合は全国より25ポイント高く、また、自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることが難しいと感じている児童の割合も、「どちらかというと思う」も含めると73%を超えている。
さらに、「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか」という問で、最後まで解答を書こうと努力した児童は、全国よりも25ポイント低いというような結果も、文章を書くことへの苦手意識が表れていると考えられる。
- 国語の勉強と同様に「算数の勉強は好きですか」という問では、「どちらかといえば当てはまる」も含めると全国より約12ポイント低い。しかし、「算数の勉強は大切だと思う」で、「当てはまる」という児童の割合は86%で、全国よりも14ポイント上回っている。

★課題

- ① 上述した弱さは、国語の学力テスト全ての正答率の差にも出てきていると思われる。特に、文章で答える回答形式では、苦手意識がはたらき、無解答率の高さにも現れている。
- ② 国語の小説や資料を読む時、気持ちを理解しながら、情景を思いながら、内容を把握しながら捉えていき、まとめていく学習、特に気づいたこと、感じたこと、わからないことをその場その場で書き出す訓練をし、慣れさせ、まとめ、発表していくことが重要だと考える。最初は、授業等を受けての少ない字数の感想文から始まり、その時数を徐々に増やすような形の作文指導、授業を受けた後のノート指導（めあて、学習内容、まとめ等が書けているか）。さらに、ノート指導を受けるための自分での復習、まとめの時間を確保し、きちんとまとめられるように学習、指導していくことを目指したい。
- ③ 授業そのものに関しては、算数や国語において、勉強は大切であると思いつつも好きになれない子もいることから、教師として、授業における教材の工夫や、興味・関心を引き出すための取組もさらに考えていく必要がある。本校で取り組んでいるアクティブ・ラーニングをより浸透させるべく努力していくことが今後の目標である。